

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。(＊印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

文章A

生活していく上で間にあうという数でいえば、三〇〇〇語あれば間にあう。だいたいは生きていられる。これが、いわゆる基本語です。では、三〇〇〇語知っていればいいのか。言語生活がよく営めるには、三〇〇〇では間にあわない。三万から五万の単語の約半分は、実のところは新聞でも一年に一度しか使われない。一生に一度しかお目にかからないかもしれない。しかし、その一年に一度、一生に一度しか出あわないような単語が、ここというときに適切に使えるかどうか。使えて初めて、^①よい言語生活が営めるのです。そこが大事です。語彙を七万も一〇万ももっていたって使用度数^①、あるいは一生で一度も使わないかもしれない。だからいらぬのではなくて、その一回のための単語を蓄えていること。例えば「味」についていえば、「味得する」という単語があります。これは確かに使用度数は少ない。今やもう、ほとんど使わなくなっているけれど、なにかの時に「それが味得できた」と使うことでピタッと決まることがある。「深い、かすかな味わいが分かった」では、文章の調子、文体としてためなときがある。文章を書くには、一度使った単語や言い回しを二度繰り返さないとという文章上の美意識がある。それに触れる。何か別の言い回しが必要になる。そのとき、その書き手がどれだけ語彙をもっているかが問題になる。^{*}類語辞典が役立つのはそういうときです。

(大野晋「日本語練習帳」による)

〈言葉の説明〉

類語辞典：意味の似ている言葉を集めた辞典。

文章B

私たちは言葉を使って、いろいろ感じたり、考えたりしている。言葉にならなければ、考えることが出来ない。考えるということは、「話す」とか「読む」とかと同じように、言語の行為である。最新の言語理論は、大まかにいえば、そのように説く。

したがって、ある種の言葉は、私たちの考えを決定してしまう。無批判に取り入れた言葉は、私たちの思考のパターンを決定してしまう。つまり、言葉によって縛られている。

言葉は、私たちの想像力を形成し、飛躍させる重要な働きをするけれど、思考の限界を作り出したり、思考をそこで停止させてしまったりすることもある。私たちは自分の中の言葉を、いつも柔らかく、いつも軽くさせておかなければならないと思う。いつでも頭の中をすぐに組み換えが出来ることは、^②知的であるための条件であるかと思う。

(金田一秀穂「金田一家、日本語百年のひみつ」による)

問題

〔問題1〕

文章A ① について、筆者の考えるよい言語生活とはどのようなことだとあなたは考えますか。**文章A** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題2〕

文章B ② について、筆者の考える知的であるための条件とはどのようなことだとあなたは考えますか。**文章B** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題3〕

この二つの文章を読んで、あなたは「言葉」についてのどのようなことを考えましたか。あなたの考えを、いくつかの段落だんらくに分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落をかえるときは、一マス空けて書きましょう。ただし、「問題1」と「問題2」については、一マスめから書き始め、行をかえてはいけません。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とつてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一マスに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。

【適性検査Ⅰ】

問題1

ほとんども使わないうような言葉も、ここと
うとまに適切に使えらるために単語も蓄え、文
章を書くときに一度使った単語や言い回しは
二度くり返さないうこと。

受	検	番	号

得	点
※	

※のらんには、記入しないこと

問題2

想像力を形成し飛躍させる一方、思考の限界
を作り出したり思考を停止させてしまう自分
の中の言葉を常に柔らかく軽くすること。

1			
※	※	※	※

問題3

文章Aではほとんども使わないうような言葉も
適切に使えらるために単語も蓄える必要があ
ると述べている。文章Bでは思考を停止させ
てしまう言葉も常に柔らかくする必要がある
と述べている。私は言葉についての二つの文

2			
※	※	※	※

章のうちに、思考の限界を広げるため、様々
な言葉を取り入れたいと考える。
私の父は人に言われどはなく、自分の意
志によつて努力を続けることも大切にして
おり、私もそう教えられきました。しかし、私
はその考えもよく理解できず、父とよくけん
かになつてしまつてきた。そんなとき、学校
で「万里一空」という言葉に出会つた。その
言葉の意味を知ると、父の伝えたかゝること
はまさにこのことだつたのだと理解した。そ
して父の努力するよう注意されたときはこの
言葉を思い出すようにして来た。以来私は「
万里一空」を座右のめりにしている。ここ
から自分の知っている単語が増えること自
分の考えも広がるのだと学んだ。
このように自分の言葉を増やすことによ
つて自分の考えも広げることが出来る。私は言
葉について自分の視野を広げるためにこれ
からも様々な言葉を取り入れていきたいと思
う。

3			
※	※	※	※

4			
※			

2023
年度

都立桜修館中等教育学校

【適性検査Ⅰ】

(四五五分) (満点:一〇〇点)

【独自問題】

次の【文章A】・【文章B】を読んで、あとの問題に答えなさい。(※印の付いている言葉には、文章のあとに「言葉の説
明」があります。)

文章A

アウトプットする「面白さ」は、インプットする「面白さ」の何十倍も大きい。両方の経験がある人には、理屈抜きで納得できる感覚だろう。

いくらでも例が挙げられる。沢山の音楽を聴きよりも、自分で演奏し、歌った方が「面白い」し、またそうすることでしか上達できない。

この成長がまた「面白く」感じられる要因として加わる。

あらゆる技は、すべて自分でやってみないとわからない。「やる」とは、アウトプットである。教えられている立場では、なかなか頭に入らなかつたものが、人に教えると一度で自分の身につく。僕は、教壇に立って学生に二十数年間講義をしたが、教室にいる誰よりも、僕が一番勉強になった。

子供は、なんでも自分でやりたがる。見ているだけでは面白くないからだ。自分でやってみて、初めて「面白い」ことが本当にわかる。見ただけでは、「面白そう」としかわからない。「面白い」とは、本来アウトプットすることで感じられるものであり、それが本物の「面白さ」なのだ。「何十倍」と強調したが、それは、本質と*ダミイの差だといっても良い。

小説を読むことはインプットである。ただ文字を読むだけでは「面白く」はない。その物語の中に入る、いわゆる「感情移入」ができる

と、頭の中でイメージが作られる。これはアウトプットだ。感情が誘発されるのもアウトプットである。結局は、①「面白さ」の本質はここにある。

(森 博嗣「面白いとは何か?面白く生きるには?」
(一部改変による))

【言葉の説明】

ダミイ:本物に似せて作ったもの。
誘発:あることがきっかけとなって、他のことが引き起こされること。

文章B

クイズ番組などで「ひらめき」などに焦点を当てたものがありませんが、これらの背後には柔軟な思考に対するあこがれと*信奉があるように思えてなりません。そこで用いられている材料が、あまり通常の思考には関係のないものだったりすると、その思いを強くします。思考それも柔軟な思考にあまりに力点が置かれていることに*危惧の念を抱いているにすぎません。すなわち、柔軟な思考はかりに注目して、思考の材料や思考の指針にもなる「知識」の働きを無視ないしは軽視しているのではないかと危惧しているのです。そして、「知識」に質の差があるということに気づいていないのではないかと危惧しているのです。

こう言い換えてもいいかもしれません。「知識」は「知恵」や妥当な解決の単なる材料であって、アウトプットの質にさして関係しないと思われています。しかしそうではない、②大いに関係するというのがここで述べたいことです。

簡単な例として「割り算」を取り上げてみましょう。

「割り算とはどういう演算ですか?」と問うと、ほとんどの人が「分けることだ」と答えます。確かに、「15個の飴を5人で等しく分けました。ひとりいくつになるでしょう」といった課題であれば、 $15 \div 5$ という割り算をして、ひとり3個になるという結果を得て「分ける演算だ」ということで問題はありませぬ。

しかし、 $2/3$ という分数や 0.5 といった小数で割るといのはどういう意味なのでしょう。確かに $5/2 \div 2/3$ は、割る数をひっくり返して掛けることによつて答えが得られるというのは、小学校で習うことですから、まず全員できるでしょう。問題は、 $2/3$ で割るとい意味です。この時、先ほど出てきた「割り算とは分けることだ」という考えが使えないのは明白です。「 $2/3$ 人で等しく分ける」というのは意味をなしません。

あるクルマが、40Lのガソリンで500km走ったとします。この時 $500 \text{ km} \div 40 \text{ L}$ で得られる 12.5 km/L という数値は、1Lあたりの走行距離を表しています。いわゆる「燃費」です。逆に $40 \text{ L} \div 500 \text{ km}$ で得られる数値 0.08 L/km という数値は、1km走るのに要したガソリンの量を示しています。どちらでどちらを割るのかは、用途によつて異なってきますが、得られた2つの数値は、「割るのに用いた量(距離かガソリンかですが)」の「1あたり」を表しています。これはガソリンが1より小さい量であっても変わりませぬ。「 $6 \cdot 25 \text{ km}$ 行くのに 0.5 L のガソリンが必要でした」という場合に、 $6 \cdot 25 \text{ km} \div 0.5 \text{ L}$ で得られる 12.5 km/L が、1Lあたりの走行距離、燃費を表しているのは明白です。

割り算が「1あたりの値を求める」演算だと考えるなら、先の分数÷分数のような問題でも意味がわかります。長さ $2/3 \text{ m}$ のパイプの重さが $5/2 \text{ kg}$ だったとしましょう。この時1mあたりの重さを求めるには $5/2 \text{ kg} \div 2/3 \text{ m}$ となり、 $15/4 \text{ (kg/m)}$ という値が得られ

ます。1mの重さは $15/4 \text{ kg}$ になるわけです。

「割り算」という同じ演算についての知識ですが、「1あたり」という捉えの方が、「分ける」という捉え方より、より広範(こうはん)はものごとを捉えられるのですから、知識として質が良いと言えるでしょう。「1あたり」という捉え方は、「分ける」という捉え方を*包含(ふくま)しますし、より広い範囲の割り算を了解(りょうかい)でき、より広い範囲で割り算を使えることになるのです。

「1あたり」の「知識」の方が、「分ける」に比較(ひかく)して柔軟に使えるでしょう。同じ割り算に関する2つの「知識」に「差」があるのです。柔軟な思考だけが、アウトプットの柔軟さ・適切さに関わるのではなく、「知識」の違いによつても差を生じるのです。「知識」は思考の質に関係しないわけではないのです。

(西林克彦「知ってるつもり」「問題発見力」を

高める「知識システム」の作り方)による)

〈言葉の説明〉

信奉(しんぽう)：ある考えを最も良いものとして信じて従(したが)うこと。

危惧(きこん)：あることを心配し、おそれること。

演算(えんざん)：式の示すとおり計算すること。

包含(ふくま)：中(うち)にふくんでいること。

問題1 **文章A**に①「面白さ」の本質はここにあるとありますが、

「ここ」とは何か、本文で挙げられている具体例以外で考えられる場面を答えましょう。また、それを挙げた理由を、**文章A**全体をふまえて二十五字以内で答えましょう。

(書き方のきまり)

○ 読点(よみだん)↓、や 句点(くじたん)↓。 かぎ↓「」などはそれぞれ一ます

に書きましょう。

○ 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直

しましょう。

問題2

「**文章B**」に②大いに関係する」とありますが、何が何に「関係する」と「**文章B**」の筆者は述べていますか。本文で挙げられている具体例を用いて、百字以内で説明しましょう。

(書き方のきまり)

○ 行をかえたり、段落だんらくをかえてはいけません。

○ 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ます

に書きましょう。

○ 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。

問題3

「**文章A**」・「**文章B**」を読み、あなたは学校という場では、どのような学びがあると考えましたか。また、今後の学校生活において、どのように学びに向き合いたいですか。それぞれの文章の内容をふまえて、四百字以上五百字以内で自分の考えをまとめましょう。第一段落には、学校にある学びについて書き、第二段落よりあとには、どのように学びに向き合いたいかを書きましょう。

(書き方のきまり)

○ 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。書き出しや、段落をかえるときは、一ます空けて書きましょう。

○ 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。

○ 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓」は、同じますに書きましょう。

○ 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。

○ 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。

積極的^{きそく}に体験^{たいけん}

○ 最後の段落の残りのますは、字数として数えませんが、文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。

2023年度 12/30

50 x 30

文章Aでは本物の面白さはインプットではなくアウトプットにより感じられると述べている。文章Bでは知識の質はアウトプットの質に関係すると述べている。私は学校には、文章Aのように体験などのアウトプットを通じた学びと、文章Bのようにアウトプットの質を高めるための知識の習得があると思う。私は今後の学校生活において、アウトプットも大切にしたい。以前学校で、植物は光合成で人間を作ることを確かめる実験をした。葉にヨウ素液をためる実験であり、スミーズにできると思っていた。しかし、いざ実験を行うとヨウ素液が反応した青紫色と葉のこの緑色の区別ができず実験は簡単ではないと学んだ。この通り、知識を実際に自分で試すことで学びは深まると思う。

同時に知識の習得も大切にしたい。実験の失敗の原因を考えるため教科書の手順と比べてくしたところ、葉の緑色をなくす作業が重要であったことに気がついた。この通り、知識

20 x 20

18.1.30

18分30秒

30 x 30

を得ることによって体験の学びの質は高まると思う。
 学校の学びでは、アウトプットと知識の両
 方が必要だ。私は今後の学校生活では、積極
 的に知識を試すと共に、そこから学びの質
 を高めるために知識の習得にもはげみたい。

20 x 20

30分30秒

二〇二〇年度

都立桜修館中等教育学校

〔適性検査Ⅰ〕(四五五分) 〈満点：一〇〇点〉

〔独自問題〕 次の〔文章A〕は、科学史家の村上陽一郎が「教養」とは何かについて書いた本の一部分で、「多くの知識やその広がりや教養の一要素になっている」と述べたあとに続くものです。

〔文章B〕

も同じ本の一部分で、「教養を身につけるとは、きちんとした人間として、正しいと思う方向に向かって自分を造り上げていくことなのではないか」と述べたあとに続くものです。この二つの文章を読んで、あとの〔問題〕に答えなさい。(＊印の付いている言葉には、文章のあとに〔言葉の説明〕があります。)

〔文章A〕

でも私は、教養にはもう一つ、決定的に大きな要素が含まれている、と確信しています。それは、自らを立てることに必要なのが教養だと思ふのです。「立てる」と言っても、「人より先にする」という意味ではなく、「揺るがない自分を造り上げる」という意味です。あるいは、自分に対して、＊則を課し、その則の下で行動できるだけの力をつける、＊と言い換えてもいいかもしれません。

〔文章B〕

つまり、何を材料にして自分を造り上げるか。広い知識や広い体験は決定的に大事な材料の一つですけど、全部ではない。造り上げるといふと、いかにも何かがちに造り上げた完成品ができてしまうように見えますけど、そうじゃないんですね。自分と

いうものを固定化するのではなく、むしろいつも「開かれて」いて、それを「自分」であるで見なす作業、そういう意味での造り上げる行為は実は永遠に、死ぬまで続くわけです。

(村上陽一郎「あらためて教養とは」による)

〔言葉の説明〕

則：人の行動や判断のよりどころとなる考え方。

〔問題〕

この二つの文章は、それぞれどのようなことを言いたかったのだとあなたは考えますか。解答らん①には、〔文章A〕について百字以内、解答らん②には、〔文章B〕について百四十文字以内で、それぞれあなたの考えを分かりやすく書きましよう。なお、〔文章A〕については「教養とは」という書き出しで、また、〔文章B〕については「教養を身につけるとは」という書き出しで書きましよう。(それぞれの解答らんには、あらかじめ書き出しの語句が印刷されています。)

また、この二つの文章を読んで、あなたは「自分を造り上げる」ためには何が必要だと考えますか。解答らん③に、あなたの考えを、自分の体験や経験などを交えながら、いくつかの段落に分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましよう。

(書き方のきまり)

○ 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましよう。

○ 書き出しや、段落をかえるときは、一まず空けて書きましよう。

ただし、解答らん①と②については、あらかじめ印刷されている語句に続けて書き出すこととし、段落をかえてはいけません。

○ 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。

○ 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「」などはそれぞれ一まずに書

2020年度 12/31

文章Aでは、自分を造り上げるには多く①知識を身に着けたうえで、自分で判断して行軌する力をつけることが必要と述べている。文章Bでは、~~自分が正しいと思いたい~~が文章Aに比べて、他の考えも聞くことが自分を造り上げるには必要と述べている。私も自分を造り上げるためには、文章Aのように幅広い視野を身に着けるとともに、文章Bのように物事を柔軟に考えることが必要だと思ふ。まず、視野を広げることが重要だ。私の学校の委員活動の1つに栄養黒板がある。栄養黒板は朝早く学校に来ることになっていたが、朝に二なり人も多かっただめ、いつにするか話し合った。私は一番時間が取れる朝がよいと考えたが、前日の給食後が良いとの案も出た。理由を聞いたところ、朝が早く起きられないというもので、自分と異なる視点があることを知った。

また、自分が常に正しいわけではないと考え、他の考えを認めることも大切だ。前目の

二〇二〇年度 17分18秒少

給食後に集まる案を一緒に試してみた結果、
参加人数が増え、自分も委員会活動を上手く
行う方法を学び成長することができた。
この上に自分を造りあげるには広い視野
と柔軟な姿勢の両方が必要だ。私もこれから
いざれも大事にしてながら歩んでいきたい。